

**【参考資料②】**  
**宮中取水ダム試験放流に伴う**  
**平成22年度（1年目）補足調査結果の概要**

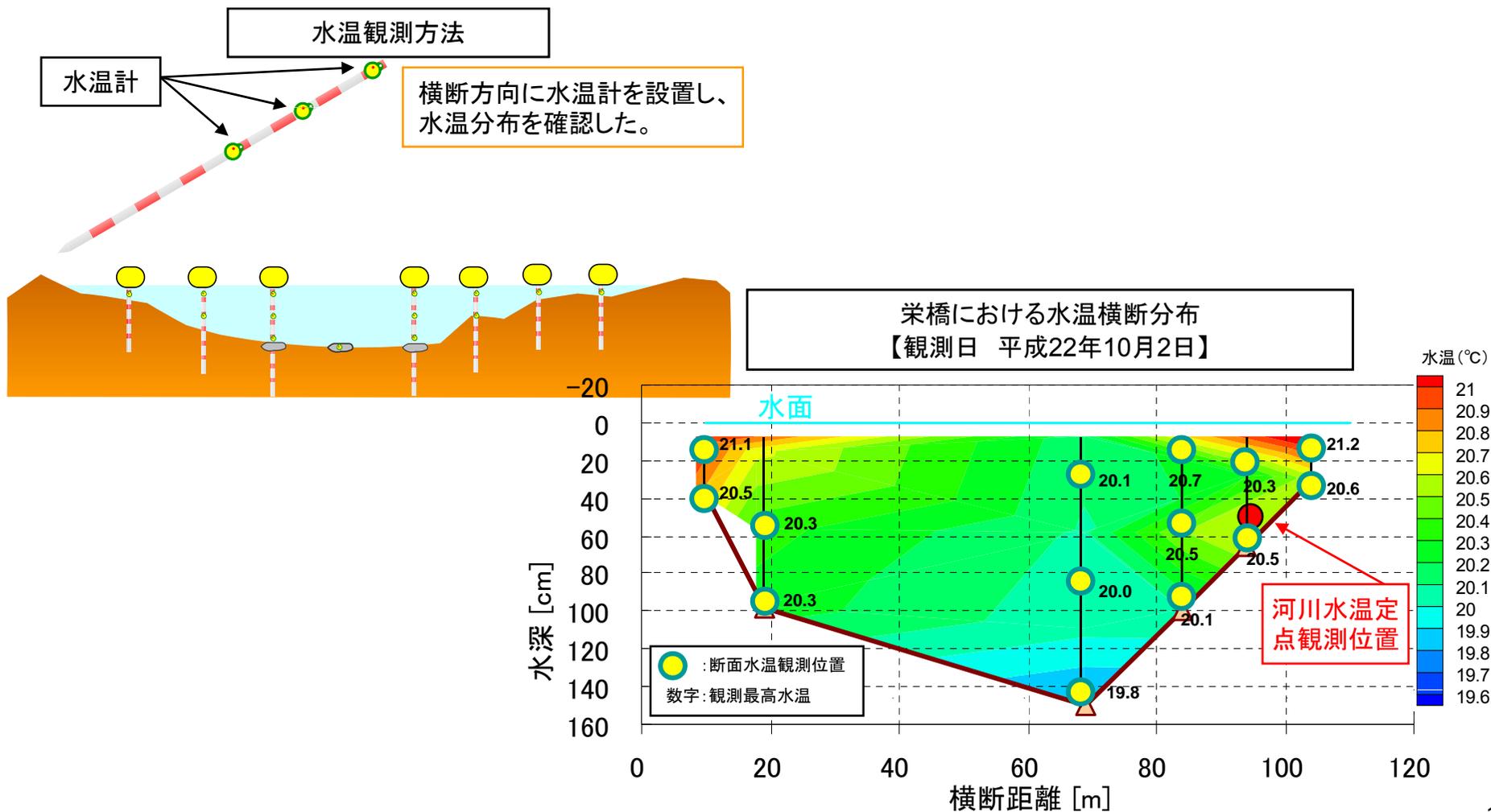
**平成23年2月16日**  
**東日本旅客鉄道(株)**

# 目 次

定点観測位置と水温横断分布	1
天然アユ遡上確認結果	2
付着藻類の生育状況（アユの餌資源として）	3

# 定点観測位置と水温横断分布

- ・ 河川内には、低水温水の流入箇所その他、断面方向の水温差があり、定点観測位置よりも低水温部の存在が確認できた。
- ・ 40cm以上の水深で観測した本調査は平均的な水温であったことが確認できた。



## 天然アユ遡上確認結果

アユ生息、生育状況調査(アユ遡上期)及び魚類(生息・生育状況)調査時に、採捕したアユを用いて、アユの種苗由来判別を行った。その結果、宮中取水ダム上流で採捕されたアユの中で、天然アユと判別されたものが存在した。

調査地点	アユ遡上調査時 アユ採捕数	魚類調査時 アユ採捕数	由来判別 検体数	標本抽出率 %	判別結果	
	6/11～17	6/21			天然と判別 されたアユ	天然と判別され なかったアユ
宮中取水ダム上流	—	16	16	100.0	7	9
宮中取水ダム魚道	104	—	88	84.6	17	71
宮中取水ダム直下流	21	—	16	72.7	2	14
栄橋	1	2	3	100.0	1	2
上片貝	7	—	7	100.0	0	7
妙見堰魚道	1	—	1	100.0	0	1
宇賀地橋(魚野川)	3	—	3	100.0	0	3

\*：アユ遡上調査の実施時期および漁法・努力量は、6-3-3を参照  
魚類調査時のアユは、春季と夏季の個体を対象とし、漁具・努力量は、6-1-1の概要を参照

※天然アユ：河口より遡上してきたアユ

# 魚類（アユ生息・生育状況）調査

## 付着藻類の生育状況 (アユの餌資源として)

強熱減量では、早瀬、平瀬ともに十日町橋、福山橋で多く、それ以外の地点では20~30%と同程度の値を示していた。

クロロフィルa量では、宮中取水ダム下流から栄橋の間において少なく、魚野川の影響を受ける上片貝が多かった。また、信濃川よりも魚野川の方が高い傾向がみられた。

アユの餌条件として、強熱減量では、信濃川、魚野川ともに同程度であったが、クロロフィルa量では魚野川の方が多かった。



5cm × 5cmの範囲の付着物を複数の石から採取(5検体)

